

# 取組の視点

## <経緯・背景>

- 現産業ビジョン（2018.3）において、産業振興の観点から様々な施策を広く網羅して実施。
- 地域経済の持続可能な発展条例（2022.4）において、社会経済環境の変化等を踏まえた考え方や経済産業政策の軸を大胆に変更・追加。



- 条例において、政策目的や基本の方針など新たな政策軸を設定。その上で、基本の方針の実現に向け、政策的な必要性の観点から「目指す姿」とその「実現に向けた方向性」や「取組例」などを広く網羅的に整理。
- 一方、全ての取組を網羅的に実施することは困難であることから、必要性や波及効果等の観点から、優先順位やメリハリをつけて取り組むことが必要。
- 施策の必要性や効果等の観点に加え、各種取組から共通する課題や不足を抽出し、取組の際の「視点」を設定。「視点」に基づき、多様な施策／取組の中から優先順位やメリハリをつけて実施し、取組の効率化や効果の最大化を図り、「目指す姿」の実現に取り組んでいくことが必要。

## <主な課題例>

- ・ 施策の効果の波及や広がりへの限定性
- ・ 公益性、公共性、公平性等の観点からの検証
- ・ 施策の使い勝手、認知度
- ・ ニーズの多様化・専門化への対応や実務に則した対応
- ・ 地域資源や地域内外の人的資源の有効な活用
- ・ サポートを提供したい側の行動の促進不足
- ・ 相談する場所や人の認知度
- ・ 連携やネットワークの十分な構築、認知度
- ・ 公共的役割を担う団体や人の役割等の認知や活用度
- ・ 情報やデータの不足、もしくはたどり着かない
- ・ 中間支援組織の活動の十分な相互連携や多様な選択肢の円滑な提供
- ・ 制度や取組、活動への柔軟性（ゆるさ）
- ・ 価値観や時代の変化にあわせた主体の取り込み
- ・ 一見関係が薄いこととの繋がりによる広がり促進
- ・ 行政だけでやる意識からの脱却、他の団体等との連携促進の視点
- ・ ソフトを加速させる要素としてのハード基盤



### 横断的課題 1

他の政策との横断的な連携が十分でない

- ・ 課題が単独分野に閉じない状況が広がる中、分野別の考えから脱却できていない
- ・ 主体の広がりや巻き込みへの対応が十分でない

### 横断的課題 2

必要性や、影響・波及効果が最大化されていない

- ・ ニーズの把握や公共性など多角度からの検証が不十分
- ・ 効果検証が十分でなかったり、手法が確立されていない

### 横断的課題 3

施策の使い勝手が悪い

- ・ ニーズの把握や多角度からの検討が不十分
- ・ ニーズや価値観がより多様化している側面も一部ある

### 横断的課題 4

専門機関／人材を活用できていない（多様な主体を巻き込めていない）

- ・ 行政主体の施策立案の意識から脱却できていない
- ・ 一部実施も、ニーズや価値観の更なる多様化に伴い、必要性も増加

### 横断的課題 5

協業や連携を促す環境（プラットフォーム(PF)等）が十分でない

- ・ 従前からの公共的役割を担うPFをPFとして活用できていない
- ・ 認知や活用の幅が限定的
- ・ つながる方法やアプローチが不十分

【原因】



### 視点 1

横串としての地域経済産業政策

- ・ 各分野の課題解決に寄与する横串としての地域経済産業政策の構築
- ・ 分野横断的な連携強化（行政内含む）により効果的・効率的な課題解決や付加価値創出

⇒分野横断的な効果の波及や付加価値の創出・増大

### 視点 2

インパクト設計  
（インパクト評価の導入）

- ・ 公共的意義はもちろん、地域経済への影響（インパクト）を考慮し、効果や必要性の高い施策を優先的に実施
- ・ 多様な側面からの効果や影響を重視した施策の制度設計や評価

⇒地域経済や産業分野への効果の最大化と区民生活の質の向上への寄与

### 視点 3

デザイン思考  
（ユーザー視点、実態把握）

- ・ 「使われる／使える施策」により、真に必要な人が施策を使える状況を構築
- ・ 「届ける」点も意識することで、必要な人に情報や施策を届ける

⇒必要とする者が使える施策の構築と使い勝手の向上

### 視点 4

民間活力活用と役割分担  
（専門機関／人材の巻き込み）

- ・ 地域の資源としての専門的知見を活用した多様なニーズへの実務に則した対応
- ・ 民間活動との役割分担により、行政は公共的必要性の高いものへ注力

⇒民間と行政の役割分担の明確化と支援効率化、実務に則した効果最大化

### 視点 5

プラットフォームを通じた多様な主体の交流  
（協業・連携促進）

- ・ コミュニティやつながりの促進により、自主的な活動や行動の円滑化を図り、更なる効果や発展を後押し
- ・ 既存の街のPF（商店街等）との「ゆるさ」による新たな交流促進

⇒地域の力の最大化、新たな付加価値創出、広い主体の巻き込みによる新たな付加価値の創出

【展望】